

2月15日（日）主日礼拝レジュメ

「敬虔な振る舞いに現れる不服従」 使徒の働き 7章1～8節

2節から53節まで、非常に長いステパノの旧約聖書に関する長いメッセージがなされているが、なぜステパノはこのような説教をしたのか。ステパノが言おうとしたことは、ユダヤ人たちは、繰り返し、神が立てた人と神ご自身に逆らい、神の律法にも逆らったということ。51節「うなじを固くする、心と耳に割礼を受けていない人たち。あなたがたは、いつも聖霊に逆らっています。あなたがたの先祖たちが逆らったように、あなたがたもそうしているのです。」という罪の性質をユダヤ人たちは引き継いでいることを明らかにしようとしたのです。また、ステパノに対してリベルテンの会堂に属する人々、クレネ人、アレクサンドリア人、またキリキヤやアジアから来た人々は、6章13節「この人は、この聖なる所と律法に逆らうことばを語るのをやめません。」と言っているが、逆に神が立てた人に逆らうことで、神に逆らっていると言う。そして、ソロモンを通して建てられた神殿で神を礼拝しているが、ステパノに対してこのようなことをするのは神を礼拝する者のすることなのか、神殿を聖なる所と呼び、そこで敬虔に礼拝がなされているが、そこは本当に聖なる所なのか、そこに本当に神は臨在しておられるのか、神殿を聖なる所と呼んでいる者たちが神をも恐れず、このようなことをするのかとステパノは言おうとした。

1節で大祭司は「そのとおりなのか」とだけ言っているが、ステパノはユダヤ人の教える信仰の教義とは相容れない考えを持っていて、異なる教義を教えることで、他のイスラエルの人々を惑わそうとしているのかということを探ねようとした。特に、イエスへの信仰によってユダヤ人を惑わそうとしているのかということ。

ここでステパノは、まず「兄弟ならびに父である皆さん」と言い、自分も同じユダヤ人であるとの意味で兄弟と呼びかけ、父というのは大祭司をはじめ最高法院のメンバーたちに対して尊敬の意味を込めてそう呼びかけた。まずステパノは、信仰の父と呼ばれるアブラハムから話し始める。ステパノは、アブラハムを「私たちの父」と呼び、まず自分自身と最高法院のメンバーを始め、すべてのユダヤ人が共通に持っている事実、信仰、確信、希望などを確認しようとしている。

2 節

① 創世記 15 章 7 節「わたしは、この地をあなたの所有としてあなたに与えるために、カルデア人のウルからあなたを導き出した主である。」

② ネヘミヤ 9 章 7 節「あなたこそ神である主です。あなたはアブラムを選んで、カルデア人のウルから連れ出し、その名をアブラハムとされました。」

カルデア人のウルからアブラハムを導き出された。「栄光の神が彼に現れ」とあるように、異邦人の地ウルにも主は現れるということ。4 8 節「しかし、いと高き方は、手で造った家にはお住みになりません。」とやっているように、主は、みこころのままにどこにでもおられる神であって、特定の場所に縛り付けられるような方ではない。それは、神はユダヤ人だけの神ではなく、全人類を救いに導こうとしているお方であることを意味している。3 節「あなたの土地、あなたの親族を離れて、わたしが示す地へ行きなさい。」と言われ、アブラハムは行くところを知らないで、神に従った。イスラエルは、このアブラハムの信仰から始まった。

4 節で、「今あなたがたが住んでいるこの地」つまり約束の地へと導かれ、5 節でアブラハムに子が与えられる前に、「この地を彼とその後の子孫に所有地として与えることを約束されました。」イスラエルの民すべてが神の約束の成就を見ているのであり、ステパノはいかに神が真実な方であることを強制的に語っている。

7 節

③ 創世記 15 章 13, 14 節「あなたは、このことをよく知っておきなさい。あなたの子孫は、自分たちのものでない地で寄留者となり、四百年の間、奴隷となって苦しめられる。しかし、彼らが奴隷として仕えるその国を、わたしはさばく。その後、彼らは多くの財産とともにそこから出て来る。」

イスラエルの民は指導者モーセのもと出エジプトを成し遂げ、荒野での 40 年を過ごした後に、アブラハムに約束されたカナンの地へと再び導かれ、「この場所でわたしに仕えるようになる。」(欄外注「別訳「を礼拝するようになる。」が成就した。

8 節において神はしるしとしてアブラハムに割礼の契約を与え、アブラハムは、神の仰せに従い、生まれたイサクに対し八日目に割礼を施した。

2～8 節まででステパノが言いたかったことは、アブラハムの徹底した神への服従。ユダヤ人たちに、あなたたちはアブラハムのように徹底して神に従っているか、神の約束のすべてが成就し、神の真実を目の当たりにするほどに、アブラハムのように神に信仰をもって服従しているか、このような最高法院に引き渡しているのは、神に服従した結果なのかということ。むしろ、51 節のように「うなじを固くする、心と耳に割礼を受けていない人たち」ではないかと、あなたがたも聖霊に逆らっていると、ステパノは反論している。その一方で、アブラハムについて語ったステパノは、神に従い通している。

ステパノは、知恵と御霊に満ち、信仰と聖霊に満ちていた。それゆえに、訴えられた中でも言い訳をせず、恐れることなく真理をもって堂々と反論し、主に従い通した。私たちも、そのように御霊と知恵とに満たされ、信仰と聖霊に満たされて生きる中で、アブラハムの信仰を証したステパノのように徹底的に主に従い、主の真実を目の当たりにして、それを証しできる信仰者とさせていただきたい。